

(1) 教科指導

中学 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
国語	<p>課題</p> <p>①基礎学力・学習習慣の定着 ②生徒間の学力・学習意欲の格差 ③新学力観への対応</p> <p>目標</p> <p>全員が中三までに高校につながる学習の姿勢態度を確かのものにする</p>	<p>①ノートの確認指導。 ②小テスト指導。 ③予習・復習及び宿題の指導。 ④新学力観に対応するために、語彙力・読解力・表現力・聞き取る力を養成するための教材使用及び指導を行う。 ⑤シラバスの充実</p>	B	<p>ノート・小テスト・宿題の指導により、日常的に国語の学習が以前よりも定着してきた。古典の指導は1年次から古文漢文に親しむ機会を増やし、2・3年次では高校につながる学習習慣を身につけつつあるが、生徒の興味関心や主体的な学習姿勢を引き出すための工夫がこれまで以上に必要であり、そのためのIOTの活用には今後改善の余地がある。新学力観への対応に関しては、中学3年間を見通した学習活動が十分であるとはいえないが、定期考査では新傾向に即した出題を昨年度よりも増やしている。学習習慣・基礎学力を身につけさせることはもとより、プレゼンテーションや小論文などにも挑戦し、生徒の興味関心や主体性・積極性を養うための教育活動の充実を図ることが急</p>
社会	<p>①社会事象に関心を持ち、主体的に考え行動する力を養う ②図版や映像資料をもとに、内容を把握し、分析する考える力を養う ③歴史分野・地理分野に関して、高校での歴史総合・地理総合の学習に繋がるよう、基本的な知識を身につけ、理解を深める</p>	<p>①社会事象について、新聞やテレビ、インターネットなどの最新の情報をもとに授業時に取り扱い、教科の学習だけでなく、世の中の出来事についての興味関心を持つ姿勢をもつように指導する。 ②歴史分野・地理分野・公民分野の知識・理解を断片的なものとするにとどまることなく、生徒たちに向けて、世の中の出来事を考える上で「活きた知識・理解」とするため、随時、調べ学習や意見交換、発表の場を設ける。特に、中3では修学旅行の研究発表を行う。</p>	B	<p>①史料や地図を、プロジェクターを活用しながら解説することで、より深い理解に繋げることができた。 ②各クラスにある新聞等を用いながら、適宜時事問題を取り扱い、生徒の興味関心を深めることができた。 修学旅行の事前学習については、行程の変更等もあり、準備が遅れたが、生徒主体で進めることができています。</p>
数学	<p>①生徒の、中学校数学への興味関心を高め数学的な考え方を育成する。 ②6年間の指導とその後の各自の進路希望を見据え、進路希望が達成できる数学の学力を養成する。 ③各クラス間の情報を共有することで教職員相互の連携を図り、学年全体として効果的な生徒の育成につなげる。</p>	<p>①授業内容の工夫に取り組み、数学オリンピック、数学検定等へのチャレンジを促し、数学の学習への関心を高める。 ②基本となる授業内容の質を高め、教材の精選を図る ③生徒一人一人が、数学の学習を通して成長できるような指導の取り組みを工夫する。</p>	B	<p>授業への取り組みを通して、生徒の数学への関心を育てることはある程度できているが、まだ十分ではない。生徒間の学力差、意欲の差、取り組む姿勢に大きな差が見られ、担当の教師の創意工夫が一層必要となる。教員間の共通理解をさらに進めて次年度に繋げたい。</p>
理科	<p>①科学的興味関心の向上 ②科学的思考の養成 ③科学的態度や知識の積極的な習得</p>	<p>①視覚的な教材をより多く使用する ②実験観察を中心に授業を展開する ③実験観察から見える法則性を見出す能力を高めるように、レポートやノートの書き方の指導を行う</p>	B	<p>①展示実験をして具体的な現象を見せたが、器具の不足でビデオなどで補った。 ②実験室でできるだけ、実験実習を行たったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、実験が行えなかった。 ③レポート指導を行い、実験のまとめ方の指導を行った。</p>

教科指導

中学 教科	改善すべき課題及び目標	改善に向けての行動の具体的な内容	評価	年度末総合評価・チェック事項
保健体育	①体力の向上 ②基本技術の習得 ③事故やけがの予防・防止 ④感染症について知り、予防と対策に努める	①準備運動を念入りに実施し、ランニングや体づくり運動を積極的に取り入れる。 ②基本動作の反復練習を根気よく取り組む。 ③体育用具や施設・設備の点検、準備運動やクールダウンを実践する。また、日陰での休憩や水分補給をこまめに取り入れる。 ④情報収集と三密の回避、マスク着用、消毒の徹底	A	①ソーシャルディスタンスを意識し、準備運動や補強運動、ランニングを積極的に行うことができた。 ②感染症対策もあり、基本練習を工夫し、ゲーム練習を少なくしたことで、基本技術の向上につながった。 ③学期ごとに体育用具の点検・修繕・補充をおこない、休憩や水分補給も意識的に行うことができた。 ④講義の時間を増やしたため、例年以上に感染症について知り、予防や対策にも積極的に取り組めた。
外国語	①基礎・基本の徹底⇒学習習慣・基礎学力の定着を図る ②語彙力を伸ばす ③英語力を養う ④(読む)(書く)(聞く)(話す) 4技能の育成 目標 生徒たちにとってすべての分野に必要な外国語に興味関心をもたせ、その能力向上に努めること	①課題プリント・ノート提出・単語テスト・小テスト・考查後の復習テスト・対外模試の受験を実施 ②単語集や辞書の活用(紙辞書の使い方) ③対外模試(進研模試等)受験 ④G T E C (core, basic全学年)や英検(中3のみ団体受検)の実施	B	今年度も新型コロナの感染拡大の影響で、課外など時間外の指導ができなかった。また、マスク着用から発声する活動の発音・会話の練習などには以前と違い配慮や工夫が必要となった。また、生徒の理解度にある一定の開きがあり、その対処とこれからの方法を考える必要がある。
技術家庭	①自立の基礎を固める ②共生を学びあう ③現代の社会に対応できる力をつける	①基礎基本の徹底 ②実習、実験内容の精査 ③研修、研究の実施	B	各学年度の分野に関しても基礎基本を身につけるような授業ができた。実習については、被服実習で手縫いの基礎を身につけることができたが、限られた時間の中で進めることが難しく、もう少し作業が少ない教材でもよいのではないかと感じた。生活設計についても将来を見通し、一生に使うお金やどんな住まいに住みたいかということに関してそれぞれで調べることができた。

4段階評価	A:大いに改善あり B:だいたい改善あり
	C:やや改善なし D:全く改善なし